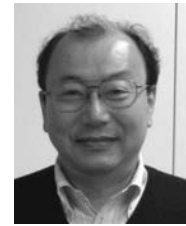


日本の切り札は

Aces for Japanese strategy



田中耕太郎*

先日、長野県飯田市を訪ねる機会を得ました。飯田市環境モデル都市推進課とおひさま進歩エネルギー（株）の方々と、地域熱融通と太陽熱利用の情報を頂くのが目的です。東京より飯田市へは新宿発の高速バスが便利ですが、もし皆様が訪ねる機会がありましたら、JR 飯田線を使うのはいかがでしょうか？お勧めします。ただし時間とお金はかかります。中央本線岡谷駅で乗り換えて飯田に電車で向かうことができます。南アルプスがきれいに見えます。太陽エネルギー学会会員として感激なのは、車窓からソーラーパネルをのせた家が多く見られることです。高速バスですと防音壁と街中を走らないので見えないのです。PV パネルと太陽熱集熱器をならべて設置している家もちろほ見られます。薪ストーブ用でしょうか。煙突のある家も目立ちます。電車は各駅停車でゆっくりと飯田駅に近づいていきます。再生可能エネルギー利用についての未来像が見えます。飯田市は環境モデル都市に選ばれ、各種補助金の努力に加え、太陽エネルギー利用の理想郷としての環境がマッチした土地なのかもしれません。ちなみに飯田市には、リニア新幹線の駅ができると、品川から 45 分だそうです。

飯田市ではペレットストーブが小中学校に備えられ、当番学生が世話をしています。ペレットを作っている南信バイオマス協同組合の井口様の話です。良質な材料から作製したペレット燃料は、灰はほとんど出なくて、排気ガスもきれいと言いました。ペレットを運び、灰を処理し、煙突掃除をするなど、少し手間のかかるところが、環境保全の学習・討論会のきっかけには最適の教材だそうです。最近、家の中で炎を見ないです。異なる意見もあると思いますが、薪ストーブのような手間のかかるものは、やはり引退後の趣味の領域でしょうが、その点、木質ペレットは扱いやすいし、木質チップのバイオマス CHP もますます増えると思います。海外から安易にバイオ燃料を輸入して逆に環境を壊すことは注意点ですが、より広い、大都市に近いところまで活用を広げる期待はできると思います。なにしろ、「化石燃料は燃やせない時代」は近いです。

先日、韓国大田（Daejeon）を訪ねました。ソウルから大田駅まで韓国新幹線で 1 時間（160 km）で、料金は約 2400 円です。物価もほぼ同じ韓国で、交通機関の料金がどうしてこんなに違うのか？ という話は置いておき、ソウルで訪ねた国立中央博物館の仏像の話です。この博物館には、多くの貴重な仏像が展示されていて、仏像のお顔は日本とそっくりで美しいです。百済から仏教伝来していますので当然ですが、しかし、景色は少し違うのです。韓国の仏像は石造です。韓国で森林が伐採されてしまったのは、仏像の後だと思います。日本人には木の仏像でないと何かしっくりこないのは見慣れない理由だと思います。インド、中国、朝鮮半島では石造が流行し、日本では石造が流行しなかった理由は当時に戻ってみたいところです。日本は、森林と水、雪と海が豊富で切り札なのではないでしょうか？

インポシブルミート社の記事を見ました。開発されたハンバーガーはおいしそうで、日本でも早く食べられるとよいです。食糧問題とエネルギー・環境問題を解決する新しい技術はすばらしいです。昔読んだ「Factor4 豊かさを 2 倍に、資源消費を半分に」（1998 年）米国カッセル大学学長のワイツゼッカーという人の著書を思い出しました。内容はタイトル通りに、効率 2 倍で資源消費を半分に、社会を変えて豊かさを 2 倍、合計 4 倍というものです。掛け合わせることが明るい未来を導く方法として本当に求められているのであると今更ですが実感しました。情報化社会による豊かな未来も楽しみです。日本の切り札となるこの両面の技術が多く出てくれば、2030 年で温室効果ガス半減は明るくクリアできる値でしょうか。日本では政治家が悪いのではなく、グレッタさんのように政治家に物を申さない国民がいけないのでしょうか。社会に対する災害などのお災がなくても、急いで変革ができる社会に貢献できる切り札技術の開発にイエスという積極的な 10 年にチャレンジと思った今日この頃です。

* 芝浦工業大学